

鬼の死のこと伝はず鬼やらひ

藤田湘子

テレビで偶然見た「鬼の宿」の神事が忘れられない。

奈良県天河村に伝わる、節分の前夜、鬼を神として蒲団にお迎えするというもの。そのあまりの荘厳さに思わず「鬼って何？」と改めて考えさせられた記憶がある。天河村の鬼は神格化され行者の子孫が伝承する再生の鬼。

鬼やらいの鬼は、「鬼は外」という追われる鬼。追われる立場になった時にその存在が消され、死さえも伝わらないということか。考えてみれば「鬼は外」とは随分と乱暴な物言いではある。「鬼は外」と言つて排斥している間は、鬼の死はおろか、鬼の存在すら伝わることはないだろう。作者は自分の中に鬼を見つけて、その死の伝わらないことを一瞬想像したのかもしれない。

2003年 (A15作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京